

市民活動・虎の巻

研究テーマ 「活動休止・解散のススメ」

始めることと終わることは切り離せない裏表の関係。今回は、活動の最終局面を上手く乗り越えて、次の活動へとつなげた事例を紹介します。活動を終わることに對して悪い印象を抱きがちですが、活動団体のライフサイクルとしていつか休止・解散を迎えるのは当然の流れ。当初の目的が達成されたり、またはメンバーの状況変化によって継続困難となれば、いつまでも「幽霊団体」として存続させるよりも、活動にけじめをつけた方が次の展開へと気持ちよく踏み出せるはず！



話し手:ひろかわかよこさん

GoGo! あこがれかあちゃん部

団体設立のきっかけ

お母さんの笑顔が子どもの笑顔につながるの信念から、子育て中のお母さんが出会い、交流し、互いに楽しめる活動を「部活動」と見立てて実施。共通の課題意識をもつ3人が中心となって2014年に設立し、多くのお母さんを活動に巻き込み、背中を押してきました。

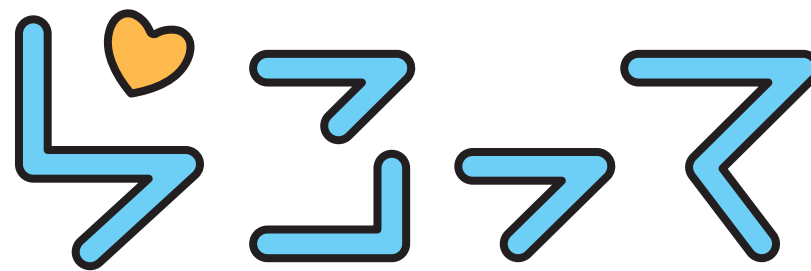


活動休止の理由

多くのお母さんたちに支持され、順調に活動展開していた一方で、徐々に中心メンバー各人の活動や仕事軌道に乗り始め、これまでの様に活動継続することが困難になりました。また、活動に参加していたお母さんたちの自主性が育ちつつあったため、当団体がなくともそれぞれに必要な活動を続けられるだろうとの考えもありました。意思決定は少人数の方が良いとの考えから、中心メンバーのみの話し合いで活動休止を決定。「解散」ではなく「休止」としたのは、せっかく活動を通して生まれた一人ひとりの関係性が無くならず、未来に活かされるように繋ぎ留めておきたいとの気持ちからでした。

活動休止とその後

活動休止前の最後に「大交流会」を開き、これまでの活動参加者に感謝の気持ちを伝えるとともに、気持ちよく次へと向かえるための「けじめ」をつけることにしました。スパッと活動休止したため、中心メンバーの3人とも後を引くことなく次の段階に進むことができました。また、部員として関わっていたメンバーの中にも独自の活動を始めた方もいます。その後も互いに相談や協力し合ったりと、活動を通して生まれたネットワークは、それぞれの活動に活かされています。



Racotte
vol.67

発行●ながおか市民協働センター

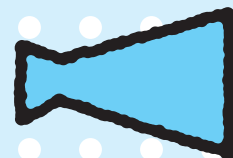


インタビュー

interview

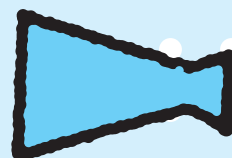
日本の伝統文化を伝える
お箏の先生

松澤悦子さん



カメラとペンで地元を
見える化するギターマン

高橋沙原さん



we can do it!

私たちは〇〇ができます!

長岡には様々なノウハウやスキルをもつ市民団体がたくさん! 困りごと、協力してほしいことはありませんか? 私たちが力になりますよ!

団体①

「摂食障害親の会・向日葵の会」は、
摂食障害に関する座談会を企画できます!

摂食障害の子どもを持つ親が、心の内を語り、気づき、助け合っていくための活動をしています。互いに話を聴いて一緒に考えていく座談会の企画ができます。ご要望があればこちらから出向いて行うことも可能です。



団体②

「とちラボ」は、
モノづくり体験のイベント出店などができます!

栃尾地域の豊かな資源を活用し、栃尾の魅力向上を図っています。モノづくり体験などをイベント出店で提供できるほか、栃尾地域の空き家・空き店舗の紹介や、リノベーションの相談にも対応できます。



information

センターからのお知らせ

越後長岡まちの駅 シールラリーの旅2018

人や情報が集まる場所「まちの駅」。まちの交流拠点であるまちの駅を巡って「ご当地キャラシール」を集めるシールラリーの旅を今年も開催します。シールを集めて申し込むと、各駅の特徴ある素敵な景品を抽選でプレゼント。まずは、市内に59あるまちの駅で「越後長岡まちの駅シールラリーの旅」のパンフレットをゲットしよう!



【実施期間】
平成30年
7月23日(月)~9月9日(日)



こののぼりが
まちの駅の
目印です!

越後長岡まちの駅
ネットワーク代表
原田 敏さん



コライト 検索

ながおか市民協働センターは、地域をより良くする市民の活動が集まる拠点です。協働センターのwebサイト「コライト」では、市民が行うイベントや助成金などの情報を幅広く掲載しています。らこらマのバックナンバーも閲覧できます。ぜひご覧ください。

らこらマ 2018.7.1 (vol.67) FREE 【発行】ながおか市民協働センター

〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10 シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 Mail. kyodo-c@ao-re.jp http://nkyod.org

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。



毎週月曜日17時頃から放送中!
つながるラジオ

FMながおか 80.7MHz
ながおかの市民活動紹介番組 | 放送時間 10分程度 第5日曜日を除く

●活動PickUp!

- ・特定非営利活動法人虹の家
- ・たらどり若者会議〜波音〜
- ・田麦山スポーツ振興会
- ・長岡市ハイヤー協会

●市民活動・虎の巻

- ・活動休止・解散のススメ
話し手:ひろかわかよこさん
- 私たちは〇〇ができます!
・摂食障害親の会・向日葵の会
・とちラボ



松澤悦子さん (64歳 / 師範) 中之島地域民生委員、長岡市景観審議会委員

磨いた特技を地域の子どもたちへ お箏で伝える和の文化

中之島地域でお箏を教えている松澤悦子さんは、お箏を通じて、和の文化を伝えるため熱心に活動しています。

お箏に憧れたきっかけは、中学生のときに聞いた「春の海」に魅了されたこと。その後、寮生活で出会った先輩のついで、念願のお箏を始め、地元に戻り結婚してからも子育てと並行しながら腕を磨いていきました。

師範取得後は教える立場となった松澤さんですが、娘さんの一言が転機に。「音大に進んだ娘にお箏を教えてほしいと言われ、自分の子どもをはじめ、地域の子どもたちにお箏を教える機会が今までなかったことに気づきました。日本の文化に触れる機会が少ない今こそ、子どもたちに教えたいと思いました」。持ち前の行動力で自ら中学校に働きかけ、授業の一環で3か月間教えることに。さらに、継続して習える環境づくりを学校側にお願い

し、正式に茶道箏部を設立。伝統文化を伝える機会を自らかたちにしました。

松澤さんが大事にしていることは、ワクワクしながら習えることと、子どもたちにお箏が出来る環境を整えること。邦楽や箏部が題材の漫画の曲など、子どもたちが楽しめる楽曲にも積極的に取り組みます。また、中学卒業後もお箏を続けたい生徒からの相談をきっかけに、誰でもお箏を続けられる環境づくりが必要と強く感じたそう。民生委員だったこともあり、コミセンでお箏の体験会を開催し、翌年サークルを設立。高校生4名を含む12名で地元中之島にて活動中です。

松澤さんは今でも東京の宗家に通い自身の鍛錬にも手を抜きません。「教えることは自分で弾くとはまた違った楽しさと難しさがあります。いつまでも自分も勉強していかなければならないと感じています」



●上：中学校で指導する松澤さん。つつい指導に熱が入っています。●左下：お弟子さんにはじめてお免状を出したとき。先生として身が引き締まる思いだったそう。●右下：地元のイベントにサークルメンバーで出演。お箏の演奏で地域を盛り上げます。

profile

- 1954年 西蒲原郡分水町(現燕市)に生まれる。
- 1972年 中学生の頃に聞いた「春の海」が忘れられず、お箏を習い始める。その後、師範取得。
- 2006年 中之島中学校で部活を立ち上げ、講師として腕を振るう。
- 2016年 中之島コミセンでお箏の体験会を企画。体験会参加者でサークルを立ち上げる。

活動の根っこ

伝統楽器を通して
和の文化を楽しく
広げていきたい
松澤悦子



高橋沙原さん (31歳 / 会社員) とちラボ

栃尾で音楽の輪を広げたい 好奇心からの一歩が見せる地元の新たな姿

2014年に「うらやましがられる栃尾」を目指して栃尾地域の若者が活動をはじめた「とちラボ」。地域資源を見つめ、空き家活用や情報発信に取り組んでいます。高橋沙原さんは、団体立ち上げ当初から関わり、ブログ更新や音楽イベントを企画してきました。

活動に参加するきっかけは趣味の音楽。「作曲やライブ活動を続ける中で、地元でもっと音楽仲間を増やしたいと思っていました」。そんな時に、地域資源を有効に発信していくための勉強会のチラシを目にして、「新たなつながりができるかも」と参加。そこで地元出身者やUターン者、結婚を機に栃尾暮らしをスタートさせた人など、栃尾で頑張る多彩な若者たちと出会いました。その参加者が中心となり空き店舗を活動の拠点「ヒロチュウ」として、改装したり、トチオノアカリという灯イベントの準備に汗を流したりしています。

とちラボの活動の中で高橋さんは、自分が好きな音楽でイベント企画も行っています。地域内外から参加者を募り、「ヒロチュウ」や飲食店などの店先をステージに仕立てたアットホームなライブ「オープンマイク」を実施。子どももお年寄りも音楽に耳を傾けています。更には、得意な文章作成で情報発信を担当。「取材先で見聞したこと、文章にすることは苦労もありますが、新しい地元を発見する機会になっています」と、栃尾を紹介するブログを更新中です。

これまで一住民として暮らしてきた高橋さんですが、とちラボでの活動を通して栃尾の面白さを感じています。それを更に広げるために取材とライティングテクニックに磨きをかけたいそうです。「栃尾の人が地元に興味を持ってるといいなと思っています。私自身、これからは地元を楽しんでいきたいです」。



●上：高橋さんが企画したイベント「オープンマイク」。7/29(日)には栃尾ワインの店「葡萄の社」で3回目を開催予定。今後は野外での開催も構想中。●左下：とちラボメンバーと希望者で行う毎月1回の早朝ゴミ拾いの一コマ。仕事も趣味も異なるメンバーとの活動は多くの刺激があります。●右下：二児のパパでもある高橋さん。子育ての合間を縫って活動しています。休日には娘さんを連れて集落のお祭りを訪ねることも。

profile

- 1987年 栃尾市(現長岡市)に生まれる。
- 2002年 中学生の時にギターを始め、文化祭でステージに立つ。その後もライブ出演や、作曲も行う。
- 2015年 「とちお地域づくり楽習会」に参加。20～40代の多彩な人たちとの出会いに恵まれ、とちラボのメンバーとなる。
- 2017年 初めて企画を主催。音楽イベント「オープンマイク」をスタート。

活動の根っこ

細く長く！
高橋沙原

活動PickUp!

「つながるラジオ」で取材した団体をご紹介します

生の声は「ラジオ」「コライト」で!

特定非営利活動法人虹の家 誰もが当たり前地域で暮らす



障害のある人が自立した生活を送り、さらには社会復帰を実現させるために、それまで別々に活動していた知的・身体・精神の3つの団体が1つになり、平成6年に家族会として訓練や作業の場となる福祉作業所を始めたのが出発点でした。その後NPO法人となり10年。現在は就労支援事業、生活介護事業、グループホーム事業など5つの事業を行っており、47名の利用者が活動しています。

はね たらどまり若者会議～波音～ 若者が楽しくまちを盛り上げる

平成29年2月に若者の力で寺泊を盛り上げたいと、10代から40代のメンバー11名で活動を始めました。今年6月に初の自主イベント「～波音～大漁祭」を開催。メイン競技である「浜大漁選手権」は、昔寺泊地域の運動会で行われていたものを復活させました。当日は、小学生から大人まで地域内外から15団体が参加し、大いに盛り上がりました。これからも若者が寺泊を誇りに思えるような活動をしていきます。



田麦山スポーツ振興会 33年続いた田麦山ロードレース大会を運営



40年前にスポーツで地域を活性化させるため設立しました。当初はロードレース大会や登山、クロスカンтри大会を開催してきましたが、3年前からロードレース大会のみに絞って運営。地元の小学生から県内外の大人までたくさんの方に親しまれ、今年で最後の大会でしたが300名を超える参加がありました。地域の皆さんの協力はもちろん、県内外からもたくさんの方が協力してくれていたおかげで33年間続けてこれたと思っています。

長岡市ハイヤー協会 タクシー・ハイヤーの地域貢献を図る

長岡市内のタクシー会社8社が、事業の健全な発展、社会公共の福祉に寄与する目的で組織している団体です。昨年の「8月5日タクシーの日」には、高齢者見守りタクシーとして「オレオレ詐欺撲滅タクシー」のステッカーを各車に貼り、長岡駅前啓発チラシを配布しました。また、「福祉デマンド・ネットワーク研究会」を組織し、自力で通院できない透析患者の送迎事業も行っています。ハイヤー・タクシーの機能を地域、生活弱者の為に今後も提供していきます。



みんなの声 / 投稿 随時募集中
投稿テーマ 「これも協働!」暮らしの中で感じた人とのつながり

投稿者 ギラメンくんさん
先日の強風で我が家の屋根のアンテナが傾いていると、お隣さんからお声がけ頂きました。住んでいる私達は意外と気付かないものです。早速週末に電器屋さんに頼んで修理してもらいました。これで、我が家もご近所さんも安心。普段は回収板をまわすくらいしかお付き合いはないですが、地域の安全は地域で守っていくって大事なことですな。

投稿者 砂川祐次郎さん
集落内では夏野菜のできる時期がほとんどいっしょなので、なすやきゅうりなど、大量にいただくことがあります。「沢山出来すぎて、どうせぶちやる(すてる)からやる。」とのことで、食べきれないほど沢山の野菜をさらにあっつこちにお裾分けします。ひよっとしたらこれもある意味協働かも?

投稿方法
投稿フォームを使う QRコードから投稿フォームへアクセスしてください。
協働センター窓口で投稿する 協働センター窓口を設置されている「みんなの声」コーナーからも投稿できます。

